

平成 23 年度 エマージング市場対策事業
エマージング市場委員会 研究報告論文

中東・北アフリカ諸国の 政治構造の変容と経済展望

平成 24 年 3 月
日本機械輸出組合

はしがき

2011 年、中東・北アフリカ (MENA: Middle East and North Africa、以下 MENA) は騒乱の年となった。きっかけは、チュニジアの首都チュニスから南方約 260 キロ、人口約 4 万人の小さな町シディブジドで家計を支えるため、野菜や果物を道端で売っていた 26 歳の若者が、2010 年 12 月 17 日、「無許可販売」を理由に摘発を受け、警察官に暴行された後、抗議の焼身自殺を凶ったことだった。2011 年 1 月 4 日、焼身自殺を凶った若者が死去すると不正義に対する憤りが反政府デモになってチュニジア全土に広がり、ベンアリ大統領を放逐、反政府運動はその後エジプトやリビアをはじめとする独裁体制が続く MENA 諸国のほとんどの国に波及した。エジプト、リビア、イエメンの長期政権はその後崩壊することとなった。

2012 年、MENA 諸国は、一体どこに向かおうとしているのだろうか。再始動に向けて歩みを進める国、今なお、内戦状態にある国、各国の政治・経済的展望について、これまでの歴史、経済状況、政治体制、データを駆使して論じていきたい。

なお、本論中に扱った事象はすべて筆者の信頼する資料・データから引用、依拠して考察したものである。日本機械輸出組合エマージング市場委員会におけるこれまでの講演の報告内容も織り込んでいる。万一、本文中に誤りがあった場合すべて筆者の責任に帰するものであり、その際は、どうかご容赦、ご寛容いただきたい。

本論では、第 1 部で、MENA でなぜ、独裁体制が続いてきたのか、について、これまでの民主化に関する先行研究から概観する。第 2 部で、民主化が起きたチュニジア、エジプト、リビアでなぜ民主化運動が起きたのか、について考察する。第 3 部では、イスラエル、ヨルダン、モータニア以外の MENA16 カ国について、現在の情勢分析と経済を中心に今後の展望について論じる。最後に MENA 諸国への欧米企業の取り組みと我が国のビジネス機会に触れ、若干の私見を述べて本論を閉じることとしたい。

【目次】

はしがき

第 1 章：なぜ MENA では独裁が続いてきたのか.....	3
1. 構造的要因.....	3
2. 歴史的要因.....	9
3. イスラエル問題と中東戦争.....	15
4. 情報の非対称性の存在—高い取引コスト.....	18
第 2 章：体制崩壊の原因とその過程.....	22
1. チュニジア.....	22
2. エジプト.....	26
3. リビア.....	33
第 3 章：MENA 諸国の今後の展望.....	37
A. 北アフリカ諸国.....	37
1. チュニジア.....	37
2. エジプト.....	39
3. リビア.....	41
4. アルジェリア.....	42
5. モロッコ.....	44
B. 湾岸諸国.....	45
6. サウジアラビア.....	45
7. アラブ首長国連邦 (UAE).....	48
8. カタール.....	49
9. クウェート.....	51
10. オマーン.....	52
11. バーレーン.....	54
C. その他の中東諸国等.....	55
12. イラン.....	55
13. イラク.....	56
14. トルコ.....	58
15. ヨルダン.....	60
16. シリア.....	61
第 4 章：MENA 市場の拡大可能性と課題.....	63
1. 今後の展望と我が国との関係.....	67
2. 熱視線が注がれる MENA—新世代エネルギー開発の最先端地域.....	68
3. 国家横断的にターゲットを絞る.....	71